

平成 28 年度 第 4 回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 10 月 25 日（火）

13 時 30 分～17 時 00 分

場所：三重県合同ビル 3 階 G 3 0 1 会議室

1. 開 会

2. 主催者挨拶

3. 議 事

市木川水系の整備計画（案）について説明をし、次のような意見をいただいた。

- 住民アンケートでは、緑橋防潮水門が文化財もしくは土木遺産であることを 8 割の方が知らず、8 割の方が治水上の課題を優先するとの結果となっている。次回のアンケートでは、緑橋防潮水門の文化的価値が十分理解されるよう工夫していただきたい。
- 緑橋防潮水門は 5 連の水門を有しており、全国的にみても最大規模であり文化的価値が高いと考えられることから、基本方針における改築については県及び御浜町の文化財担当と協議してほしい。
- 緑橋防潮水門の改築についての設問は文化財もしくは土木遺産であることを知っているか否かでクロス集計を試みるのも良い。
- 河道掘削に際しては、現況の自然環境に配慮しながら実施するとしているが、具体的な内容や実現性についても考慮したうえで検討いただきたい。
- 植生は常に変動することから、工事の前には地元の専門家などへの聞き取りを行う等により現状の把握に努めてほしい。
- 整備計画で現状の農地の遊水機能を生かすことについて、明確に表現したほうが良い。
- カワヨシノボリに配慮した工法とあるが、具体的にどのような工法が存在するのかを、他河川の事例収集等によって把握したほうが良い。
- 魚にとっては、横断的に流速が一律な河道は好ましくなく、特にハゼ類への影響が大きいことから、配慮してほしい。

金剛川水系の整備計画（案）について説明をし、次のような意見をいただいた。

- 宝塚古墳群の埴輪は、国重要文化財ということも踏まえて流域の概要を整理すること。
- 下樋小川に関して「禊の碑」があるので参考にしてほしい。
- 近年の浸水災害は内水によるものばかりであり、流下能力が低いにもかかわらず河川の氾濫が生じていない要因として、低地における排水機場の整備率が低く雨水が河道に流入していないことが考えられる。
- 整備計画案の計画規模と、松阪市が計画している下水道計画の計画規模で整合性を図る

こと。

- 都市を流れる河川では、河川の計画規模と（下水道）雨水排水計画で治水安全度のバランスをとることは重要である。
- 河川改修のメニューとして、河道改修案と遊水地案の組合せた案も含め検討が必要である。
- 金剛川愛宕川合流点周辺のヨシ原では、チュウヒ、ヨシゴイが生息場として利用する。また、ヨシ原は水の浄化機能も期待できる。整備計画ではヨシ原に配慮してほしい。
- 愛宕川の水門上流部にはヘドロ等が溜まった干潟が干出する。水門より上流の干潟では、海洋の干潟の干満とピークがずれシギ・チドリが利用するため、河道掘削の実施にあたっては干潟に配慮してほしい。
- 「流域の概要」に金剛川水系の植生図を掲載して頂きたい。
- 河道掘削は、貴重な植物の種子散布時期後である 11 月以降に実施して頂きたい。非出水期の河道掘削は、魚類の産卵時期を避けているため良いと考える。
- メダカは、環境を代表する指標種となりうるため、メダカに配慮した施工などを心掛けて頂きたい。
- 前回の流域委員会における現地踏査時に、愛宕川でイシガメを確認したため、資料に追記して頂きたい。
- イシガイは重要種であるので、工事による影響を避けるために専門家に相談してほしい。なお、イシガイ類は同定が難しいため、専門の先生に同定を依頼したほうが良い。

4. 閉 会